

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作・大豆情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (mm)	R8 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R8 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	24.8	-0.6	29.2	28.4	-0.8	22.4	22.2	-0.2	90.3	253.5	280.7	16.3	7.8	47.9
	2	26.1	28.2	2.1	30.1	33.1	3.0	23.0	24.7	1.7	83.2	14.0	16.8	20.3	42.7	210.3
	3	26.7	29.9	3.2	30.9	34.0	3.1	23.5	26.5	3.0	61.9	0.5	0.8	24.2	40.3	166.5
	4	27.3	29.4	2.1	31.8	33.7	1.9	23.9	26.9	3.0	43.1	0.0	0.0	28.0	23.0	82.1
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月4半旬の平均気温は、平年に比べて2.1℃高く推移した。降水量は0ミリであった。日照時間は平年比82.1%と低くなった。
○九州北部は、7月8日の梅雨明けとなり、平年より11日早い梅雨明けとなった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月17日）※穂数のみ調査

項目	年次	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	概要
七タコシヒカリ	本年値	79.4	20.5	365	・穂数は平年比90%と少ない。 ・稈長、穂長は前回の値
	近似年値 ※1	81.7	18.3	394	
	平年値 ※2	86.3	18.1	405	
	平年比	92	113	90	

※1 近似年値データは出穂期が6/23であるH28年のデータ
※2 平年値はH27～R7の平均値
※3 本年移植日4月6日、栽植密度 16.5株/㎡ 1株セット本数4本 出穂期 6月22日

3. 管内の生育状況（7月17日時点）

- 1) 七タコシヒカリ：現在、穂が黄化しているため、登熟期を迎えている。
積算気温から予測される収穫適期は7月21日～7月29日頃である。
※積算気温は、あくまで目安なので、圃場での熟れ具合を確認して収穫時期を決定してください。

2) セタコシヒカリの1穂粒数の比較

	本年	近似年（平成28年）
出穂期	6月22日	6月23日
1次枝梗数	7.8	
1次粒数	41.1	48.4
2次粒数	26.4	15.0
1次穂数	63.8	63.4

出穂時期に近い平成28年のデータは、1穂粒数が63粒と少なく、本年も同じ傾向であった。1次粒数も、1本の枝梗に5.3粒と少なかった。栄養生長期が平年より7日短くなったことで、1茎の充実が劣り、穂数や1穂粒数の減少につながったものと推測される。

4. 今後の管理

1) セタコシヒカリ

(1) 水管理

- ・晴天が続く場合、早期の落水は粒の充実不足・玄米の品質低下となるため、土壌表面が白乾しないように、収穫前7日以内でも走り水を行う。

2) 普通期水稻

(1) 水管理

- ・麦わらすき込み及び麦収穫前に打ち込みを行った圃場でガスの発生が著しい場合は、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。
- ・移植後、大雨による冠水で、除草剤の効果が十分発揮できていない場合もある。その場合、中後期除草剤の対応を行う。（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）
- ・中干しの目安は、茎数が株あたり20本程度確保された時期。

(参考) 中干し作業の効果と時期

(1) 中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止→1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 →稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 →過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 →根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 →根の健全化、根の量の増加
- 6) 株支持力の増加 →倒伏防止
- 7) 圃場管理が容易 →田圃に入っても歩いてもきつくない
コンバインが入れるよう地耐力高める

(2) 中干しの実施時期の目安

→総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃、田植後35日を中心に行う。

有効分けつ決定期（株当たり小さい分けつまで20本）

～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）である。

また、開始時期の目安は、移植時期によって異なるが、有効茎（1株あたり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張しておおむね草丈が35～50cmを目途に実施する。

(3) 中干しの期間と程度（強弱）

中干し期間は5～7日だが、天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わってくる。
 圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらい。
 つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想である。
 しかし生育量や葉色によっても加減が必要である。
 指先が縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。白乾するような強い中干しは行わない。

(2) 穂肥

① 夢しずく

- ・穂肥の施用に際しては、下記の穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。
- ・「夢しずく」は、幼穂が1～2mmになるまでは伸長が緩慢であるが、3mm以上になると急激に伸長する。穂肥施用時期が遅れないように注意する。

【表1 夢しずくの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N 成分:kg/10a)	
7 3 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	2.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
7 3 cm ～ 7 9 cm	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.0kg/10a
	濃い	3.6 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
8 0 cm 以上	穂肥は施用しない					

② 「ひなたまる」

- ・施用時期が遅れないように次の穂肥診断基準に基づき、穂肥を施用する。全量一発肥料を使っている場合でも、葉色がさめている際は、穂肥を行う。

【表2 ひなたまるの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	穂肥施用時期		
	幼穂長	SPAD 値	穂肥施用量 (N成分:kg/10a)
7 7cm 未満	1mm	42 未満	3.0kg/10a
		42 以上	1.5kg/10a
7 7cm 以上	1mm	42 未満	3.0kg/10a
		42 以上	施用しない

(3) 病虫害防除【普通期水稻】

①いもち病

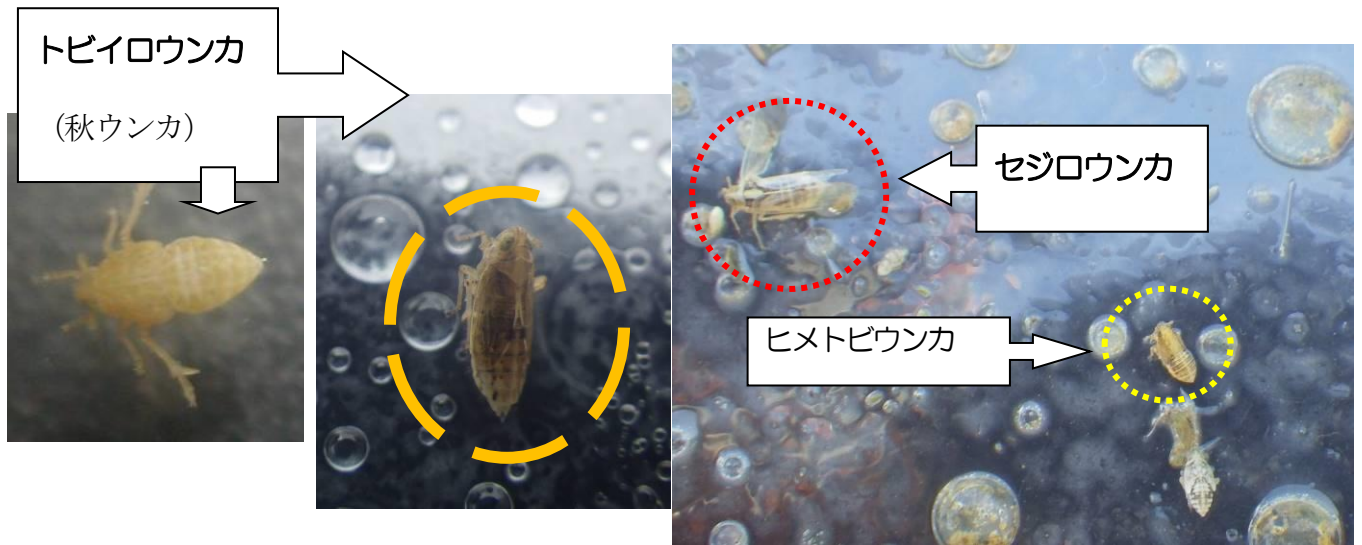
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。

②ウンカ類、コブノメイガ

- ・セジロウンカとトビロウンカは6月4日～7月6日に飛来が確認されており、特に7月6日の飛来量が多い。
- ・コブノメイガは6月20日頃から飛来が確認されている。飛来量はあまり多く確認されないが、圃場巡回では多数

の被害株が、確認されたため、発生には十分注意する。。

- 発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- 今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。



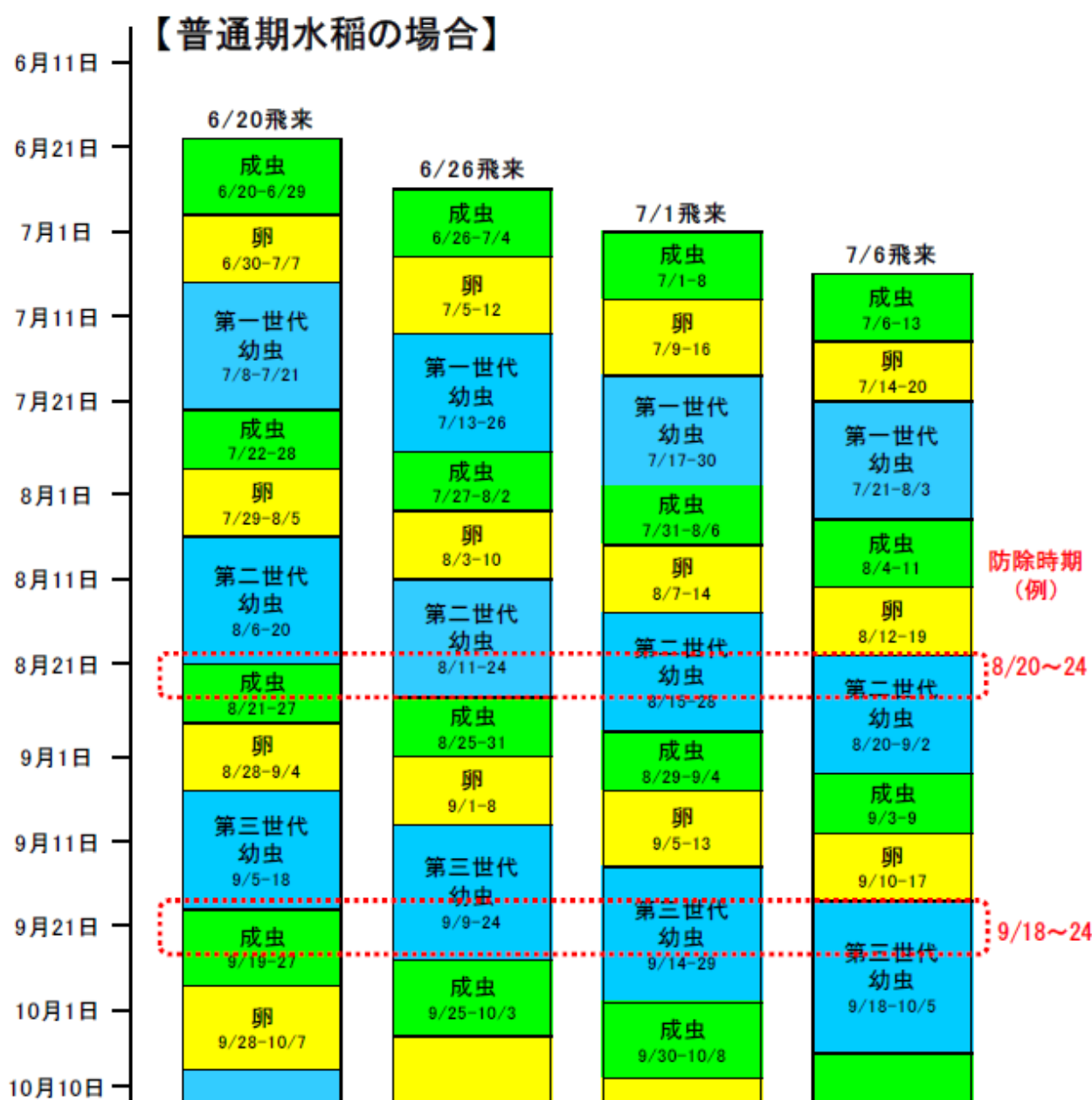


図2 普通期水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2026年7月8日作成)

1. 6月17~20日頃 (図では6月20日)、6月26~27日頃 (図では6月26日)、7月1日~2日頃 (図では7月1日)、及び7月4日~6日頃 (図では7月6日) の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ (7月8日以降は平年値) に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 赤枠囲みは、発生予測からみた防除時期 (例) を示す。
3. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
4. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

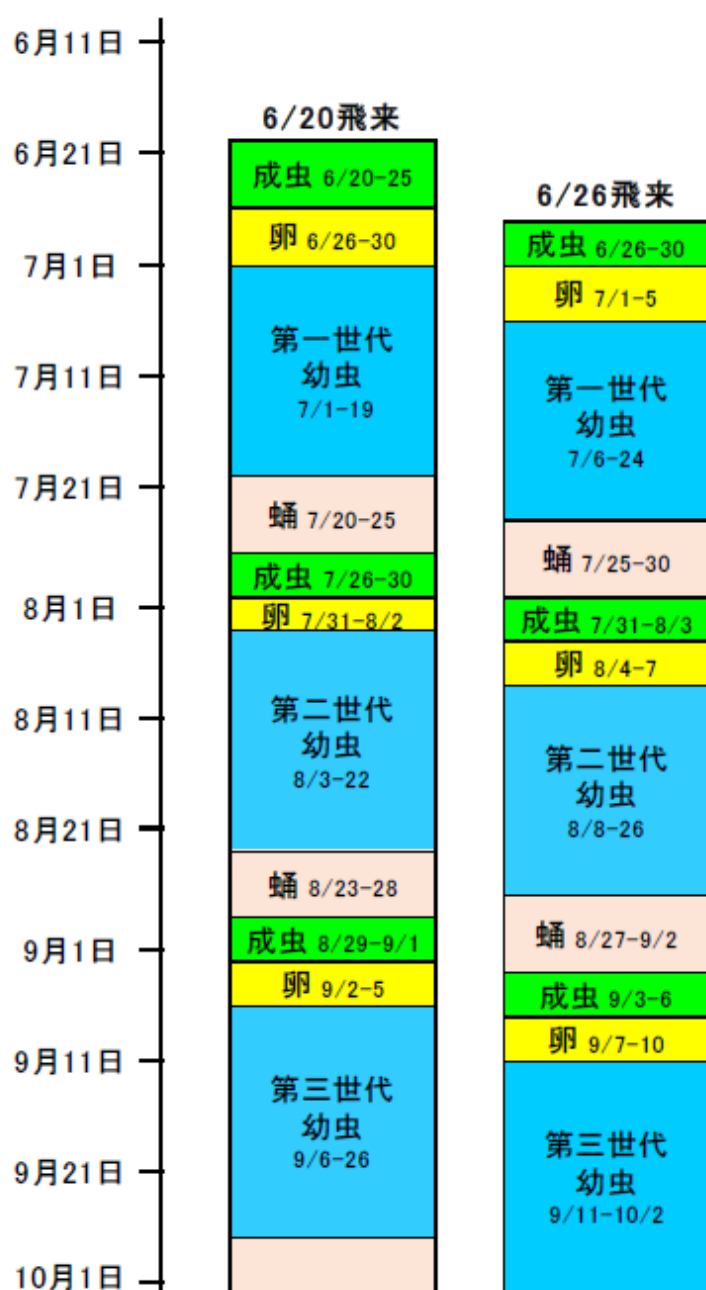


図3 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

1. 6月20日頃、6月26日頃の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月8日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和8年産「セタコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地、白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良センター

令和8年7月21日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R8	6/18	6/20	6/22	6/24	6/26
6	18	23.3	24.8	出穂期				
	19	23.4	25.0	25				
	20	23.5	25.9	51	出穂期			
	21	23.6	24.5	75	25			
	22	23.8	22.2	98	47	出穂期		
	23	23.9	19.7	117	66	20		
	24	24.0	21.6	139	88	41	出穂期	
	25	24.2	23.8	163	112	65	24	
	26	24.3	20.9	184	133	86	45	出穂期
	27	24.4	22.4	206	155	108	67	22
7	28	24.6	23.5	230	179	132	91	46
	29	24.8	24.2	254	203	156	115	70
	30	24.9	23.8	278	227	180	139	94
	1	25.1	24.4	302	251	204	163	118
	2	25.2	24.4	326	275	229	187	143
	3	25.4	24.0	350	299	253	211	167
	4	26.5	26.4	377	326	279	238	193
	5	26.7	24.9	402	351	304	263	218
	6	26.8	26.1	428	377	330	289	244
	7	26.9	27.3	455	404	357	316	271
8	8	27.1	28.4	483	433	386	345	300
	9	27.2	29.1	513	462	415	374	329
	10	27.3	29.9	542	492	445	404	359
	11	27.5	30.9	573	522	476	434	390
	12	27.6	30.5	604	553	506	465	420
	13	27.7	29.7	634	583	536	495	450
	14	27.8	29.6	663	612	566	524	480
	15	27.9	28.7	692	641	594	553	508
	16	28.1	28.6	720	670	623	582	537
	17	28.2	29.0	749	699	652	611	566
9	18	28.3	29.4	779	728	681	640	595
	19	28.4	29.9	809	758	711	670	625
	20	28.5	30.2	839	788	741	700	655
	21	28.6		868	817	770	729	684
	22	28.7		896	845	799	757	713
	23	28.7		925	874	827	786	741
	24	28.8		954	903	856	815	770
	25	28.9		983	932	885	844	799
	26	28.9		1012	961	914	873	828
	27	29.0		1041	990	943	902	857
10	28	29.1		1070	1019	972	931	886
	29	29.1		1099	1048	1001	960	915
	30	29.1		1128	1077	1030	989	944
	31	29.2		1157	1106	1059	1018	973
	1	29.2		1186	1135	1089	1047	1003
	2	29.2		1215	1165	1118	1077	1032
	3	29.3		1245	1194	1147	1106	1061
	4	29.3		1274	1223	1176	1135	1090
	5	29.3				1206	1164	1120
	6	29.3				1235	1194	1149
11	7	29.3					1223	1178
	8	29.2						1208
	9	29.2						
	10	29.2						

4月6日移植→出穂期6月22日頃

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

～

最高 930℃

< 収穫のポイント >

- 積算表はあくまで目安です。
- 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。
- 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。
- 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。
- 「セタコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間（トラックやコンテナでの堆積時間）はなるべく長くならないよう作業を進め、収穫された穀は速やかに通風・乾燥してください。



< 収穫適期の目安 >

・籾水分27～28%（穂軸の先端（穂先）から1～2cmが枯れ、穂元の青籾が5～7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満（積算気温で1,000度以上）になると刈遅れによる品質低下が懸念されます）

・収穫時期の気温が高い「セタコシヒカリ」では、普通期水稻よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での稲の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

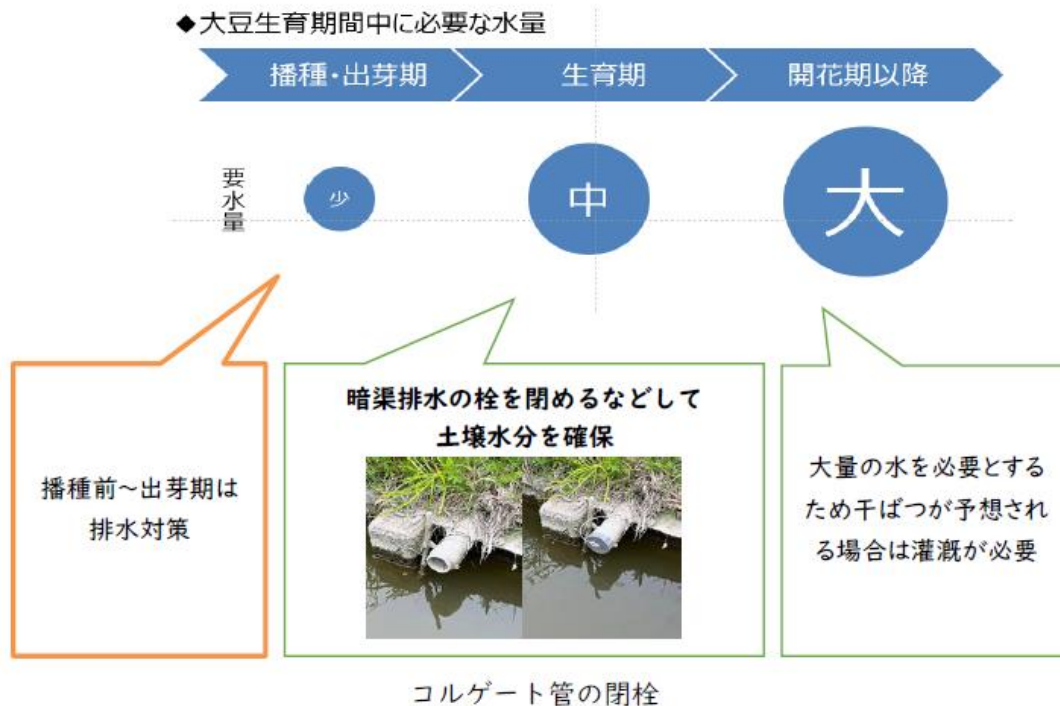
5. 大豆の管理について

- ・ 本年の梅雨明け(7月8日頃)は、平年(7月19日頃)より11日程度早く、平年に比べ梅雨期間が短くなった。

1) 乾燥時の対策

(1) 播種後対策

晴天が続き高温乾燥が予測される場合、コルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。



(2) 播種後、まだ出芽しない場合

播種後、7日程度経過した圃場では、土中の種子を掘り返し、種子の状態を確認する。

降雨が期待できない場合、うね間灌水(注1)を検討する。

注1：うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったらすぐに落水し、少なくとも翌朝には完全に落水させる。日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗し易い。

2) 雑草防除

(1) 播種後対策

播種直後に土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。なお、播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

(2) 難防除雑草への対応

アサガオ類やホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努め、見つけ次第手で抜き取る。圃場内に発生している場合、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りの防除に努める。

(3) 大豆は初期生育が早く、大豆の茎葉が繁茂することで雑草発生を抑制できるので、雑草の発生が少なければ、早めに中耕培土で防除が可能である。大豆生育期(2～5葉期)に中耕培土を実施する。

令和8年産 作物作付期間気象図 アメダス観測値(白石)

